

令和3年度 ACTR

分類 番号	A3	取組 名称	丹後ちりめんアーカイブの構築
研究代表者所属・職名：		文学部・教授	氏名： 小林 啓治
研究担当者： 京都府立大学（東 昇、山口美知代（敬称略）） 外部分担者・協力者（小山元孝氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） こまねこまつり実行委員会・NPO法人TEAM旦波			
【研究活動の要約】			
<ul style="list-style-type: none"> ・丹後織物同業組合（現丹後織物工業組合：京丹後市）が1920年代から現在まで刊行している公報『丹後縮緬』『丹後織物』のうち、1960年代までの公報の撮影とデジタル化を完了した。並行して近世文書の解説を進め目録を作成した。 ・浅茂川機業組合に保存されている、近世末からのちりめん関係資料を撮影・デジタル化した。 ・以上の資料を取捨選択してデジタルアーカイブの骨組みを構築した。 ・2021年10月31日にシンポジウムを開催し、ちりめんアーカイブが地域社会にもたらす意義を明らかにし、今後の課題を提起した。 			
【研究活動の成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果をふまえて、昨年度立てたアーカイブのテーマを下記のように修正した。①近世における丹後ちりめん業の発展 ②開港・明治維新とちりめん産業の変動 ③丹後織物工業組合の誕生 ④丹後震災による打撃と復興 ④日中戦争とちりめん業の苦境 ⑤アジア・太平洋戦争下の生き残り軍需への対応。⑥戦後の丹後ちりめん業界の状況と復興の足取り ⑦不況からガチャマン（急成長）への転換の契機と実態 ⑧生活様式の変容とちりめん産業の苦難。 ・浅茂川機業組合に保存されている、近世末からのちりめん関係資料を撮影・デジタル化し、史料の歴史的意義を考察した。同組合は丹後織物同業組合（のち丹後織物工業組合）を構成する単位となる機業組合なので、同業組合の存在意義をその下のレベルの機業組合から見直すことが可能となった。 ・多くのデジタル資料にいえることであるが、本研究で一番大きな課題となったのは、デジタルアーカイブをどのようなプラットフォームに載せていくかであった。シンポジウムで意見交換を行う中で、デジタル資料の公開とは別に、資史料の現物を展示する「ちりめん博物館」が必要であることを提起した。 			
【研究成果の還元】			
<ul style="list-style-type: none"> ・2021.10.31 丹後織物工業組合を会場 「丹後ちりめんデジタルアーカイブ成果発表会」 関係者等約10名 同時開催の資料展示の見学者約30名 ※シンポジウムの内容は、YouTubeで公開 https://www.youtube.com/watch?v=1NSDzMWCGZs&t=604s ・上記発表会の記録は『京都府立大学フィールド調査集報』第4号（2022年3月）に「「丹後ちりめんデジタルアーカイブ成果発表会」の記録」として掲載（府大図書館で閲覧可） 			
【お問い合わせ先】 文学部 教授 小林 啓治 Tel: 075-703-5254 E-mail: orochi@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）



資料撮影の様子



成果発表会の説明（府立大学院生）



ちりめん公報誌の解説（府立大学院生）



10.31 シンポジウム（京都府立大学教授小林啓治・福知山公立大学長井口和起・慶応大学特任教授福島幸宏）